2. 個別プロジェクト研究

1) ガバナンス部門（部門責任者）

辻　康夫（教授・政治理論）

2021 年度の研究活動およびそのアウトプットについて。

私の研究テーマは多文化主義およびマイノリティをめぐる政治理論であり、当センターにおいては、多文化主義とガバナンスをめぐる研究に従事している。多文化主義はその単純な外見に反して、多様な政策課題に対応する複雑な構造を持ち、これに対応していくつかのアプローチにカテゴリー化することができる。私はこれを「文化アプローチ」「支配・抑圧アプローチ」「コミュニティ・再建アプローチ」として定式化し、それぞれの論理と相互の関係を検討してきた。2021 年度にセンター内においては、当センター主催の連続講演会「マイノリティはなぜ『今』声をあげるのか：「分断の時代」におけるマイノリティ政策を展望する」を行ったが、「ブラック・ライブズ・マター運動」、「移民・難民問題」、「ムスリムの社会統合」という重要なテーマをとりあげ、それぞれの研究の第一人者と議論する機会を得たことはきわめて有益であった。個人研究としては、前年度につづいて、マイノリティ言語をめぐる政策論論争の構造の分析を進め、その成果の一部を International Political Science Association において報告した。近々、邦語の論文も公刊の予定である。また、アイヌ民族についての重要な研究が公刊されたことをうけ、その書評論文を執筆した。

その他（教育活動ほか）

学部向けには、法学部専門科目「政治学」の講義を、公共政策大学院および研究大学院向けには、「公共哲学」および「政治学特別講義」を担当した。全学教育 についてはオムニバスの総合講義「価値対立時代の対話学」のうちの 2 回分を担当した。

論文

論文標題	誌名	発行年	頁
「アイヌ民族をめぐる「分断」と「連帯」：石原真衣『〈沈黙〉の自伝的民族誌』をめぐって」	『北大法学論集』72-3	2021	227-242
「座談会：テイラーをいかに読むか」	『思想』 1173	2022	7-28

学会発表

発表課題	学会等名	年月日	発表場所
Reconsidering the culturalist approach of multiculturalism: Focusing on the policy issue of language preservation.	International Political Science Association, The 26th World Congress of Political Science.	2021.7.14	Online